

自己得点右横の「→↑↓」印は前回の自己得点と比較しての推移を表します。最下段の「前回との比較」右横の「→↑↓」印は今回の偏差値の推移を示します。

塩瀬中学校から配布される元のデータが10点ごとに人数が表記されている事と、300人以下の受験者数のため、業者模試の偏差値票に比べると若干精度は下がります。

学庵では、擬似的に...例えば「60~69点」の得点層を「69人÷10」とし、60点から69点までをそれぞれ6.9人ずつ存在するものと仮定して処理しています。

自己得点が平均点と同じなら偏差値は必ず50ピッタリです。全体の点数の散らばり方によって1点毎の偏差値の変動幅が異なります。

塩瀬中学校個票データ 偏差値換算シート

2学期 中間考査

1年 いおり まなぶ

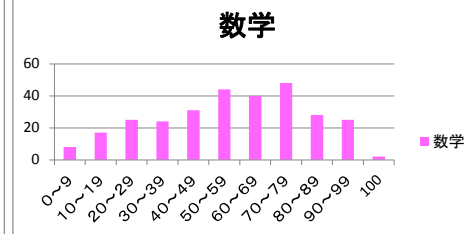
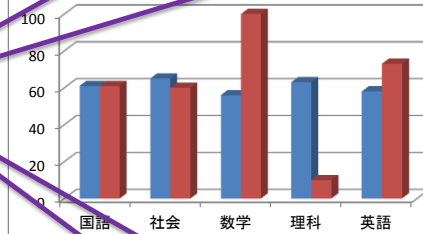
個別指導 学庵

見本・説明

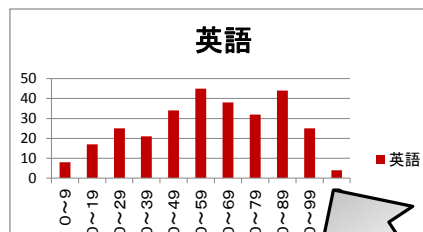
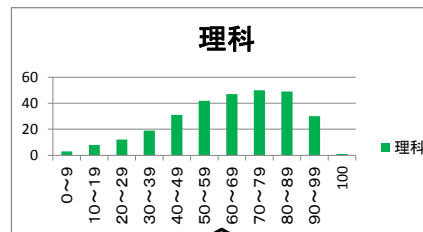
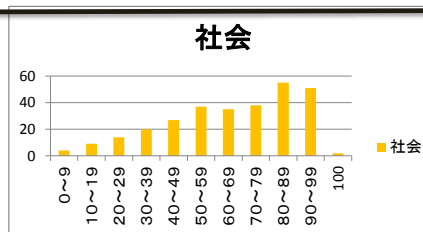
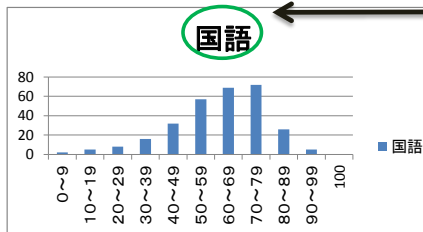
よほど極端な偏りがある点数分布でもない限り、偏差値の最大値が75を超える事は殆どありません。
(※上回れば飛び抜けて優秀)
同様に偏差値の最小値も、25を下回る事は稀です。
(※下回れば事実上最下層に位置)

得点別	国語	社会	数学	理科	英語
100	0	2	2	1	4
90 ~ 99	5	51	25	30	25
80 ~ 89	26	55	28	49	44
70 ~ 79	72	38	48	50	32
60 ~ 69	69	35	40	47	38
50 ~ 59	57	37	44	42	45
40 ~ 49	32	27	31	31	34
30 ~ 39	16	20	24	19	21
0 ~ 29	16	27	50	23	50
受験者数	293	292	292	292	293
平均点	61	65	56	63	58
自己得点	61	60 ↑	100 ↑	10 ↓	73 ↑
推定順位	159	178	2	288	93
学年推定偏差値	50.0	47.8	69.4	24.1	56.1

5科合計	5科平均
304	60.8
144	49.5



前回の得点	61	55	95	13	70	294	10点 ↑
前回偏差値	36.0	48.5	61.9	33.1	52.2	46.3	
前回との比較	14.0 ↑	-0.7 ↓	7.5 ↑	-9.0 ↓	3.9 ↑	3.1 ↑	



国語は他の4教科に比べて、たとえ相当苦手な生徒であっても、極端には低い点数にならずに済みやすい反面、なかなか100点を取りにくい科目です。見た目上の成績が極端には悪くなくとも、言語の理解が不足していると、他の科目の理解を受け止めるだけの力不足を意味し、注意が必要でしょう。

【きれいな点数分布】

あくまで一般的にですが、受験者全体の平均点が60~70点の範囲に収まるように出題すると、理解度が高かったり、きちんと努力した生徒は高得点が出やすく、逆に苦手な生徒にはそれ相応の偏差値が出やすいものです。

【2(フタ)こぶラクダ型】

成績が相対的に良かった生徒と、悪かった生徒の明暗がハッキリと分かれた結果を表しています。

出題する立場(=学校の先生)がそれを意図する事はまず無く、潜在的に持っていた弱点が一気に表面化して低い得点しか出来ない生徒が多数現れた事を暗示しています。

仮に自分が低い山の得点層かそれ以下の場合は、早急に対策を講じなければ、慢性化する危険性もあります。

偏差値は、その生徒個人の得点を、学年全体でテストを受けた生徒の点数の「散らばり具合」.....すなわち「度数分布」と比べた時に、相対的にどの位置に存在しているかを見る為の指標です。

塩瀬中学校から戴く各生徒向けの「成績票」だけでは、ABC...といった大まかなランクが示されているだけで、本当に自分の成績の良し悪し分かりません。また、前回のテストと比較するにしても問題の難易度も異なれば平均点も異なるために、果たして今回はアップしたのかダウンしたのか、正しい判断に迷います。

中3ともなれば、外部の高校受験模試を受ける機会も増えてくるでしょう。確かに問題もよく練られていますし、試験会場の雰囲気慣れも必要です。返ってきたデータはきめ細かく精度も高いのですが、有料ですし休日の午前から昼過ぎまで時間と手間を要します。普段の学校の定期考査を一番身近な成績判断の材料として活用してもらう目的で、学庵では独自に偏差値換算のサービスを提供させて頂く事になりました。